

日刊 動労千葉

84. 10. 20

No. 1771

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「分割・民営化」、10万人首切り反対！
「60・3」大合理化阻止！ 反動・中曽根内閣打倒！

全国鉄労働者の総反撃体制を築こう

動労千葉は来る11月10日、千葉市の県教育会館大ホールにおいて「11・10国鉄労働者集会」を開催する。われわれは今、一九四九年の定員法レッドバージを上まわる「分割・民営化」―10万人首切り攻撃に直面している。支配階級の死活をかけた国鉄労働運動解体攻撃に屈するならば、国鉄労働者の未来はない。動労千葉を先頭に、いまこそ総反撃に起ちあがり、侵略と戦争への道を突き進む反動・中曽根内閣を打倒しよう。

勝利の展望切り拓いた 10・10の大結集

「戦後政治の総決算」をかけた中曽根の軍事大国产化・改憲攻撃の基軸は、三里塚と国鉄労働運動の解体Ⅱ圧殺にある。この二つの基軸が、秋から来年にかけて決戦局面を迎えている。

反動・中曽根は、二期着工の突破口として、六千名の機動隊を導入し、反対する農民を盾で殴りつけ、多数の農民、労働者、学生を傷つけたうえ、不当逮捕し、成田用水着工を強行している。

これは反動攻撃の基軸Ⅱ二期着工にむけた、中曽根の並々ならぬ決意を示すものであると同時に、反対同盟の闘いの前進のまえに、追いつめられた権力の焦りの表現である。

しかし、反対同盟農民を先頭とする労働者・学生の闘いは、権力の凶暴な弾圧をはね返し、逆に三里塚闘争勝利の巨大な展望を切りひらいた。

10・10現地集会一四〇〇〇名の大結集を見よ、労働者人民の闘う拠点Ⅱ三里塚で決戦を挑み、ここで勝利するならば、必ずやわれわれは、中曽根を打倒できるのだ。

10万人首切り攻撃に総反撃を

この間、政府・監理委員会・国鉄当局等は「赤字」の責任が「タルミ」にあるとし「職場規律の確立」と称する既得権剥奪、合理化攻撃を強行してきた。そして、ヤミクモな「過員」状況を強制したあげくに、今度は「過員解消」と称してクビ切り「三本柱」を打ちだした。さらに監理委員会の「分割・民営化、

新形態移行までに20万人の前半の台まで削減」提言をうけ、実に10万人Ⅱ三人に一人の首切りを断行しようとしている。そして遂に、動労「本部」革マルら裏切り集団をふところにとりこんだ当局は、10月11日、「雇用安定協約」を一方的に破棄通告し、「今後は勝手に首も切れるんだゾ」との威丈高な恫喝政治をもつて、闘う労働者への全面屈服を強要し組織破壊を狙うまでに至っている。

まさに、「お上や当局にたてつく労働者やその家族など叩き出せ。死んでしまえ！」「それがいやなら黙って何でもいうことをきけ」という断じて許せぬ攻撃である。

「屈服」か「反撃」か、道は一つだ。屈服は首切りと死だ。断固として反撃に起とう！

裏切り者Ⅱ動労革マルを粉碎し、
「60・3ダイ改」阻止へ！

今日、労働運動指導部は、中曽根の反動攻勢にたちうちできず、総転向と総屈服を深めている。

動労「本部」革マルのごときは、「再建フォーラム運動」をもつて自民党・当局と完全に一身体となり、首切り「三本柱」Ⅱ10万人首切りを推進し、闘う国鉄労働者に背後から襲いかかっている。

この動労「本部」革マルの追放・一掃なしに、国鉄労働運動の未来がないことは明白である。

今こそ国鉄労働運動の戦闘的伝統をよみがえらせ、労働者階級の最先頭で決起し、反動攻勢を打ち破らなければならない。

三里塚と国鉄を結合して闘うことの中に、唯一勝利の道がある。

その焦点は「60・3ダイ改」Ⅱ二万四千名の要員削減攻撃をいかにぶち破るにかかっている。

10・10五割動員を実現した力で「11・10国鉄労働者集会」の圧倒的成功をちとり、「60・3」粉碎にむけた国鉄労働者の総決起体制を築き上げよう。全力で結集しよう。

臨調・行革粉碎！

10万人 国鉄労働者総集



1,000名の国鉄労働者隊列の先頭をきる動労千葉、国労共闘の青年労働者（10・10三里塚）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！